

キリストのからだの実際、すなわち

神のエコノミーにおける最高峰と聖書における最高の啓示の  
内在的な意義の中へと入る

聖書：エペソ 1:17, 22-23, 3:3-5, 9, I コリント 12:12, 24-27.

II コリント 11:28-29, ローマ 12:3-5

I. キリストのからだの実際は、神のエコノミーにおける最高峰と聖書における最高の啓示であり、知恵と啓示の霊を通して啓示されます——エペソ 1:17, 22-23 :

- A. わたしたちはキリストのからだの実際を知り、キリストのからだの実際の領域と内在的な意義の中へと入るために啓示を必要とします。このキリストのからだは神の心の願いであり、神の究極的な定められた御旨です—— 5, 9-11, 22-23 節, ローマ 12:1-2。
- B. 神からの啓示だけが、わたしたちをキリストのからだの実際という領域の中へともたらしめます。そうしてはじめて、からだはわたしたちの経験となります——使徒 9:1-5, 15, 26:18-19, エペソ 1:17-23, 3:3-5, 9, I コリント 12:12。
- C. 神の究極的な定められた御旨についての天のビジョンを見る秘訣は、わたしたちが進んで代価を払うことです——マタイ 5:3, 8, 6:22, 詩 25:9, 14, 啓 3:18。

II. シオンによって予表される勝利者は、キリストのからだの実際であり、諸地方召会の中でからだの建造を究極的に完成して、永遠において究極的に完成した聖なる都、新エルサレムをもたらします。新エルサレムは神の住まいとしての至聖所です。新天地において、新エルサレム全体はシオンとなり、すべての信者は勝利者となっています——啓 21:1-3, 7, 16, 22 :

- A. シオンによって予表されている勝利者は、キリストのからだの実際であり、召会の高嶺、中心、引き上げるもの、強めるもの、豊かにするもの、麗しさ、実際です——詩 48:2, 11-12, 50:2, 20:2, 53:6 前半。
- B. エルサレム（召会）の特徴、命、祝福、確立は、シオン（勝利者）から来ます：
  - 1. 列王紀上第 8 章 1 節において、長老たちはエルサレムにおり、契約の箱はシオンにありました。
  - 2. 詩篇第 51 篇 18 節が言うように、神は大いなる喜びの中でシオンに善を行ない、エルサレムの城壁を築きました。
  - 3. 詩篇第 102 篇 21 節が言うように、シオンでエホバの御名が言い表され、彼の賛美がエルサレムで言い表されました。
  - 4. 詩篇第 128 篇 5 節が言うように、エホバはシオンから祝福し、エルサレムに繁栄が見られました。
  - 5. 詩篇第 135 篇 21 節が言うように、エホバはエルサレムに住みましたが、シオンからほめたたえられました。
  - 6. イザヤ書第 41 章 27 節において、言葉はまずシオンに告げ知らされ、それからエルサレムに宣べ伝えられました。
  - 7. ヨエル書第 3 章 17 節は、神がシオンに住むとき、エルサレムは聖となると言っ

ています。

8. 今日、神が失敗した召会の中で探し求めているのは、十四万四千人、シオンの山に立つ人たちです——啓 14:1-5。

C. 神はいつも少数の信者を用いて、命の流れを召会に至らせ、召会を復興します。勝利者たちは召会に代わって、苦難の中でキリストの勝利の地位を取ります。神がわたしたちの中で働いて、わたしたちが進んでキリストによって征服され、捕らえられ、打ち破られることを願うようにしてくださるよう、わたしたちは神に求める必要があります。それは、キリストがわたしたちの経験の中で勝利を得る方となることのできるためです——ピリピ 2:13. II コリント 2:12-14。

D. 予表において、勝利者（成就されて円熟している神・人）は、今日のエルサレム（召会生活）の中の今日のシオンです——ヘブル 12:22. 啓 14:1-5 :

1. 召会生活の中には、一群れの勝利者がいなければなりません。これらの勝利者は今日のシオンです。

2. シオン（勝利者）がなければ、エルサレム（召会生活）は、保たれ維持されることができません。もし一つの地方召会に勝利者がいなければ、その召会はシオンのないエルサレムのようなのです。その召会は空気の抜けたタイヤのようになります。

E. 主の回復は、シオン（勝利者）を建て上げるためにあります。勝利者は、キリストのからだの実際として、新エルサレムにおいて究極的に完成します。召会生活の中で、わたしたちは力を尽くして今日のシオンに到達しなければなりません——エペソ 1:22-23. 4:16. I コリント 1:2. 12:27. 啓 14:1. 21:2. 詩 84:5。

F. キリストのからだの実際は、成就された神・人（勝利者）による団体の生活です。彼らは真の人ですが、自分の命によって生きるのではなく、手順を経た神の命によって生きます。手順を経た神の属性は、彼らの美德を通して表現されてきました——ピリピ 4:5-9 :

1. 主が緊急に必要としていることは、神・人の生活をする勝利者がキリストのからだの実際として諸地方召会において表現されることです。からだの十分な表現がなければ、主は再来しません——エペソ 1:22-23. 4:16. 5:27, 30. 啓 19:7。

2. 主が必要としていることは、勝利者たちが神のエコノミーを完成し、キリストのからだを得て、彼の敵を打ち破ることです。勝利者たちがいなければ、キリストのからだは建造されることができません。そして、キリストのからだは建造されなければ、キリストは再来して彼の花嫁を迎えることができません——エペソ 1:10. 3:10. 啓 12:11. 19:7-9。

III. 他の肢体と共にキリストのからだの実際の中で生きるために、わたしたちはみなキリストのからだの感覚を持つ必要があります——I コリント 12:24-27. II コリント 11:28-29 :

A. 「ニー兄弟はからだについて教えたとき、わたしたちが何を行なうにしても、諸召会がそれについてどのように感じるかを考慮しなければならないと言いました」——「召会生活の中で騒動を引き起こす問題」、第2章（英文）。

B. からだの中に、独立や個人主義はあり得ません。なぜなら、わたしたちは肢体であり、肢体はからだから分離して生活することはできないからです——I コリント

12:27. ローマ 12:5. エペソ 5:30。

- C. わたしたちの生活と、わたしたちの持っているものはすべて、からだの中で、からだを通して、からだのためにあります。神は今日、このような人を探しています。どうか主がわたしたちを個人主義から救い出してくださいませうように。
- D. 自分たちがからだの肢体であることを見ている人は、からだを尊び、他の肢体を重く見ます。キリストのからだの中では、すべての人が肢体であり、肢体以上の何ものでもありません。ですから、他の肢体なしに生きることができる肢体は一人もなく、他の肢体を軽視することはなおさらできません—— I コリント 12:15, 21, 23-24. ローマ 12:3. ペリピ 2:29. I コリント 16:18. 士 9:9。
- E. すべての肢体には機能があり、すべての機能はからだのためです。一つの肢体の機能は、からだ全体の機能です。こういうわけで、わたしたちは他の肢体を模倣したり、他の肢体をうらやんだりすべきではありません (I コリント 12:15)。同時に、わたしたちは自分のほうが上手であるとか、自分のほうが有用であるとか思って、他の肢体をさげすむべきではありません (21 節)。すべての信者はキリストのからだの肢体であり、すべての肢体は必要不可欠です。
- F. パウロがコロサイ第 4 章 7 節から 17 節で述べたすべての名は、パウロにはからだの感覚、すなわち一人の新しい人の感覚があったことを示しています：
1. このすべての名はまた、諸召会の間にも何の違ひもあるべきではないことを示しています。パウロがコロサイ人へ書き送ったことは、ラオデキヤ人のためでもありました。彼がラオデキヤ人へ書き送ったことは、コロサイ人のためでもありました。これは、何という交わり、一、調和、親密な接触を暗示していることでしょう！
  2. パウロは一人の新しい人としてのからだに対する彼の感覚のゆえに、彼のすべての様子をコロサイ人に知らせようテキコに命じました。
- G. からだの成長と発展に対して必要不可欠なことは、わたしたちが自分の度量を認識し、それを越えないということです。わたしたちは他の兄弟姉妹とブレンディングされることを学ぶべきです—— I コリント 12:15-18. II コリント 10:13-14。
- H. すべての肢体は自分の度量を知り、自分を高く見すぎるべきではありません。すべての人がこのようであれば、何のねたみも、野心も、他の人ができることをしたくなる願望もなくなるでしょう——ペリピ 2:2-4. ローマ 12:1-5。
- I. からだの啓示がある所には、必ずからだの感覚があります。からだの感覚がある所では、必ず個人主義的な考え方や行動は除き去られます：
1. もしわたしたちがからだを知りたいなら、わたしたちの罪深い命と天然の命から救い出される必要があるだけでなく、わたしたちの個人主義的な命からも救い出される必要があります。
  2. キリストを見ることは、罪からの解放という結果になります。からだを見ることは、個人主義からの解放という結果になります。わたしたちは見るという方法以外で、からだの領域に入ることはできません。
  3. わたしたちが知らない事を、からだの別の肢体が知るでしょう。わたしたちが見ることのできない事を、からだの別の肢体が見るでしょう。わたしたちが行なう

ことのできない事を、からだの別の肢体が行なうでしょう——Ⅰコリント 12:17-22。

4. もしわたしたちが肢体仲間の助けを拒絶するなら、わたしたちはキリストの助けを拒絶しているのです。遅かれ早かれ、単独のクリスチャンはみな枯渇するでしょう。からだ全体は、肢体の間で相互に依存することを通して建造されます——12節。

5. わたしたちの多くはこのような経験を持っています。わたしたちは乾きを覚えた時、また壁に当たった時、他の兄弟姉妹にわたしたちのためにとりなしてもらう必要があります。そうしてはじめて、わたしたちは切り抜けることができます——エペソ 1:16. コロサイ 1:9. ピリピ 1:19. Ⅰテサロニケ 5:25. Ⅱテサロニケ 3:1. コロサイ 4:3. ヘブル 13:18。

IV. キリストのからだの実際のために、神はからだを調和させられました（Ⅰコリント 12:24）。「調和（ブレンディング）される」という言葉は、「調整される」、「調和一致される」、「調節される」、「混ぜ合わされる」ことを意味し、それは区別を失うことを暗示します。ブレンディングの目的は、わたしたちすべてをキリストのからだの実際の中へともたすことです：

A. わたしたちは手続きとしての地方召会の中において、目標としてのキリストのからだの実際の中へともたされる必要があります。

B. 主の回復の最高峰は、真に、実際に、真実に神のエコノミーを完成することができます。それは神が物質的に多くの地方召会を生み出すためではなく、彼の有機体としての有機的なからだを生み出すためです。

C. 召会が一つパンであるというパウロの思想は（Ⅰコリント 10:17）、彼自身の発明ではありませんでした。そうではなく、それは旧約聖書の穀物のささげ物から取られました（レビ 2:4）。穀物のささげ物の小麦粉のあらゆる部分は油と混ぜ合わされました。それがブレンディングです。

D. ほとんどだれもブレンディングについて語りません。なぜなら、これは非常に高くで深いだけでなく、また非常に奥義的であるからです。ブレンディングは物質的な事柄ではありません。わたしたちのブレンディングの意義は、キリストのからだの実際です。

E. キリストのからだの実際のためにブレンディングされようとするなら、わたしたちは十字架を経過し、その霊により、キリストを他の人に分与して、キリストのからだを建造しなければなりません。

F. ブレンディングが意味することは、わたしたちがいつでも立ち止まって、他の人と交わりを持つべきであるということです。もしわたしたちがキリストのからだの感覚を持っており、キリストのからだのブレンディングと実際の中にいるなら、わたしたちは自分と組み合わされている他の聖徒たちと交わることなしに、何も行なわないでしょう。なぜなら、交わりはわたしたちを調節し、交わりはわたしたちを調整し、交わりはわたしたちを調和一致させ、交わりはわたしたちを混ぜ合わせるからです。

G. 一人の同労者は何をするにも事前に、他の同労者たちと交わるべきです。長老は他

の長老たちと交わるべきです。召会生活において、主の働きの中で、わたしたちはみな組み合わせにおいて、交わりなしに何も行なわないことを学ばなければなりません。

- H. ある責任者の兄弟たちのグループは常々共に集まっていますが、ブレンディングされていないかもしれません。ブレンディングの意味は、わたしたちが十字架を経過し、その霊によって物事を行ない、あらゆる事をキリストのからだのために行なって、キリストを分与することによって、わたしたちが他の人に触れるということと、わたしたちが他の人に触れるということです。
- I. このようなブレンディングは、交際ではなく、個々の肢体、地域の諸召会、同労者、長老が享受し、経験し、あずかっているキリストのブレンディングです。
- J. ブレンディングがからだであり、ブレンディングがーであり、ブレンディングがーつ思いです。
- K. ブレンディングは、キリストの宇宙的なからだを建造して（エペソ 1:23）、神の大いなる喜びにしたがって（エペソ 3:8-10. 1:9-10）、神のエコノミーの最終的な目標である新エルサレム（啓 21:2）を究極的に完成するためです。